

短 報

学生部 2009 年度活動報告 「適切な学びの環境」の実現に向けた 2 年目の取り組み

大熊 恵子¹⁾ 大久保暢子²⁾ 中村 綾子³⁾ 天岡 幸⁴⁾ 宇田川 愛⁵⁾
 福田 晴香⁵⁾ 安田みなみ⁶⁾ 四方田美里⁶⁾ 山口保菜未⁷⁾ 相原 令奈⁷⁾
 後藤 千恵⁷⁾ 鶴若 麻理⁸⁾ 小林 真朝⁹⁾ 稲田 昇三¹⁰⁾ 菱田 治子¹¹⁾

Student Affairs Section FY2009 Activity Report: The Second Year Approach for a Suitable Learning Environment

Keiko OOKUMA, RN, MN¹⁾ Nobuko OKUBO, RN, PhD²⁾ Ayako NAKAMURA, RN, MN³⁾
 Miyuki AMAOKA⁴⁾ Ai UDAGAWA⁵⁾ Haruka FUKUDA⁵⁾ Minami YASUDA⁶⁾
 Misato YOMODA⁶⁾ Honami YAMAGUCHI⁷⁾ Reina AIHARA⁷⁾ Chie GOTOH⁷⁾
 Mari TSURUWAKA, PhD⁸⁾ Maasa KOBAYASHI, RN, MN⁹⁾
 Shozo INADA¹⁰⁾ Haruko HISHIDA, MA¹¹⁾

[Abstract]

In 2008, the Student Affairs Division of St. Luke's College of Nursing launched an initiative for acquiring appropriate communication skills and basic manners so that students can effectively fulfill this institution's educational objectives and benefit from a well-rounded campus life. This year, 2009, under the slogan of "Establishing a suitable learning environment", students took the initiative and started to translate the ideas into action. First, some students voluntarily launched a committee aimed at good manner awareness. The actual activities of the committee were: promotion of exchange greetings, publishing a "manner newspaper", and setting up a mailing list among members to showcase their activities in Gakuen News and the alumni bulletin. They evaluated the results of their activities in terms of 1) manner/attitude in class, 2) the number of lost and found items, and 3) environmental improvement in the basement locker room and lounge on the second floor. Some improvement was seen in 1) and 3). In order to further promote these activities, faculty staff could show support for such student initiatives by acting as an appropriate model for students.

[Key words] suitable learning environment, manner awareness

-
- 1) 聖路加看護大学 精神看護学 助教, 学生部 St. Luke's College of Nursing, Psychiatric & Mental Health Nursing
 - 2) 聖路加看護大学 基礎看護学 准教授, 学生部 St. Luke's College of Nursing, Fundamentals of Nursing
 - 3) 聖路加看護大学 看護管理学 助教, 学生部 St. Luke's College of Nursing, Nursing Administration
 - 4) 聖路加看護大学 総務課, 学生部 St. Luke's College of Nursing, Administration & General Affairs Section
 - 5) 聖路加看護大学 学部 4 年 Class of 2010 St. Luke's College of Nursing, Nursing student, Class of 2010
 - 6) 聖路加看護大学 学部 2 年 Class of 2011 St. Luke's College of Nursing, Nursing student, Class of 2011
 - 7) 聖路加看護大学 学部 1 年 Class of 2012 St. Luke's College of Nursing, Nursing student, Class of 2012
 - 8) 聖路加看護大学 生命倫理学 助教, 学生部 St. Luke's College of Nursing, Bioethics
 - 9) 聖路加看護大学 地域看護学 助教, 学生部 St. Luke's College of Nursing, Community health nursing
 - 10) 聖路加看護大学 総務課長, 学生部 St. Luke's College of Nursing, Administration & General Affairs Section
 - 11) 聖路加看護大学 英語 教授, 学生部長 St. Luke's College of Nursing, English

2009年11月10日 受理

〔要 旨〕

聖路加看護大学学生部は、2008 年度より「適切な学びの環境の実現」と題し、適切なコミュニケーションと基本的マナーの習得のための取り組みを行っている。本年度は初年度の活動を受け、適切な学びの環境の実現に向けた行動変容を目標として学生主体の活動を行った。具体的には学生有志による学生マナー向上委員会が発足し、体育デー等における挨拶活動、マナー新聞の作成、メーリングリストの開設、マナー活動の広報（学園ニュース、同窓会誌）等が行われた。これらの取り組みを、1）授業マナーの改善、2）拾得物の件数の減少、3）地下ロッカー、ラウンジの環境改善という観点から評価したが、拾得物の件数の減少は認めなかったものの、授業マナーや地下ロッカー、ラウンジの環境の改善はその兆しが見えつつあった。適切な学びの環境を実現していくために、今後、マナーに関する学生の主体的な行動を支援しつつ、教職員自体も学生のモデルとなる行動を心がけていく必要がある。

〔キーワード〕 マナー、適切なコミュニケーション、学びの環境、学生マナー向上委員会

I. はじめに

聖路加看護大学学生部は、従来の学生支援活動に加え、2008 年度より学生が本学の教育目標を達成し、豊かな学園生活が過ごせるよう「適切な学びの環境の実現」と題し、適切なコミュニケーションと基本的マナーの習得のための取り組みを行ってきた。初年度は、この新しい取り組みを本学の学生、教職員に周知し、コミュニケーションやマナーについて考える機会を持つことが主な活動であった。本年度は、このような初年度の活動を受け、適切な学びの環境の実現に向けた行動変容を目標として活動を計画し実施した（図 1）。

以下にその内容を報告する。

II. 本年度の目標及び活動計画

昨年度の取り組みにより、本学の学生、教職員に「適切な学びの環境の実現」に関する取り組みは広く周知され、一人一人に意識付けられたものと考え、本年度は、「適切な学びの環境の実現」に向けた行動変容を目標とした。更に、本年度は、学生中心で活動がなされるよう配慮した。理由は「適切な学びの環境の実現」に向けた取り組みによる変化を一過性のものではなく、持続的なものにしたいという強い願いがあった。人々に変化するように投げかけ、実際に行動の変化に結び付けていくときには、トップダウンの指示や規制により変化を促すよりも、変化の必要性を説明し、理解を得て、人々の知識をまず変えていくことが、変化のスピードは劣るものの変化を持続的なものにできるとい¹⁾。よって、行動変容を目標とした本年は、教職員から提示する規則や規律により急速な行動変容を目指すのではなく、持続的な行動変容を目指すべく、学生主体となる活動計画とした。

III. 本年度の実施内容

1. 学生マナー向上委員会の発足

昨年度の活動において、このマナー向上活動に賛同した各学年 2～4 名ずつの計 11 名の有志学生が中心となって、学生マナー向上委員会が発足した。現在、月に 1～2 回のペースで話し合いがもたれ、今年度の活動予定や活動後の振り返りを行っている。この委員会では、学生はマナーを保っていく上で困っていることや意見を出し合い、教員はそのバックアップや必要時にアドバイスを行っている。この活動について、決定、実行しているのは学生である。

2. 前期活動実施報告

1) 挨拶活動（大学内、体育デー）

今年度の目標として、教職員や学生同士でも挨拶を積極的にすることが重点目標となった。そのため、上級生がそのひとつ下の学年へその呼びかけを行い、「お互いに積極的に挨拶を行うようにしよう」と声をかける活動を行った。教職員へは、学内ファカルティ・スタッフミーティングにて、学生部担当教員から報告し、本取り組みへの認知を広めるための活動を行った。

また、学生がマナー向上活動を行っていることをアピールすることも提案され、体育デーでも挨拶活動を積極的に行った。マナー向上委員と有志学生、教職員はリボンをつけて、体育デーに参加すること、体育デー開催前に玄関で挨拶で出迎えること（写真 1）、体育デー委員と協働し、体育デーでマナーがよかったチームに「体育デーマナー大賞」を授与することになった。

体育デー終了後、今後この活動に協力したいという学生も現れた。このような学生を「マナーフレンズ」として、この活動の協力者として、体育デーでマナー向上委員が使用していたリボンを渡し、協力を依頼することとなった。

大学のMISSION: 本学はキリスト教精神を基盤として、看護保健職域に従事する看護専門指導者の育成を目的とする。

学生部の活動目的: 将来、人とのつながりを大切に仕事をしていく専門職業人となるため、適切なコミュニケーションによる学びの環境を、学園全体で醸成することを目的とする。

学生部の活動目標: 他者を思いやりながら、お互いが気持ちよく生活できる学びの環境を学生・教職員ともに考える。
適切な学びの環境の実現のための行動を考える。
考えられた行動が実践され、お互いが気持ちよく生活できる学びの環境が作られる。

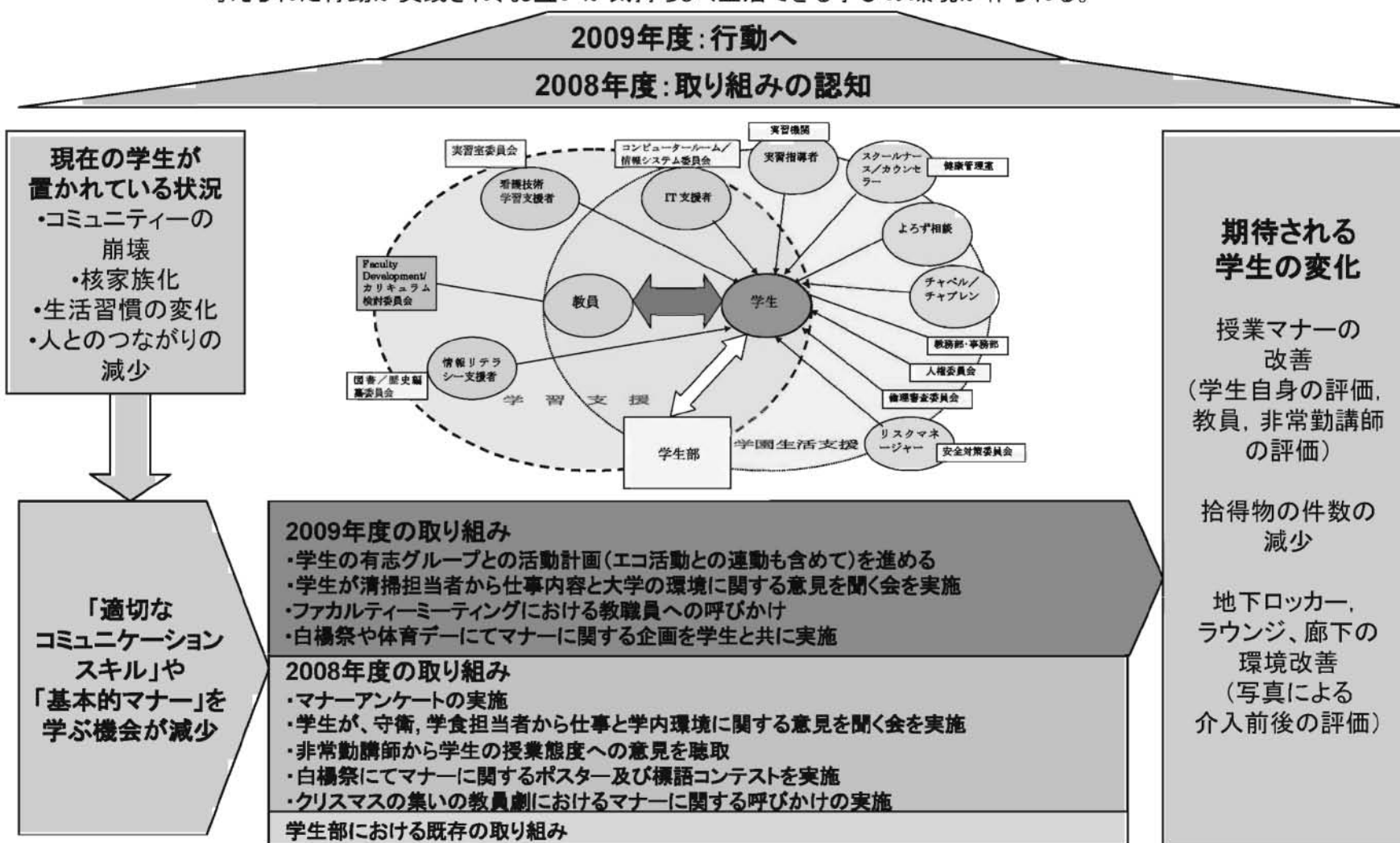


図1 2009年度学生部の活動: 「適切な学びの環境の実現」



写真1 体育デーにおける玄関先での挨拶運動



写真3 白楊祭で廊下に掲示した挨拶とゴミ分別ポスター



写真2 マナー新聞の掲示（2Fラウンジ）

このような活動により、多くの学生や教職員に周知させることができ、学園全体でこの活動に対する理解が深まった。また、学生マナー向上委員会のメンバーのさらなる活動への動機付けにもなった。

2) マナー新聞の掲示

体育デー後に行われた学生マナー向上委員会において、「この活動を学園全体に周知させることができたが、持続していくためにどうしたらよいのか」ということについて話し合われた。結果、体育デーでの活動内容やマナーフレンズに関する内容を壁新聞にして大学2Fのラウンジに掲示することになった（写真2）。

この壁新聞は、学生がもっとも利用する2Fラウンジに掲示してあるため、いつでも見ることができ、後期に

なっても体育デーでの活動を思い出すきっかけとなりやすく、学生のマナー向上の意識を維持できるようにすることがねらいであり、今後も内容を検討して継続して制作していく予定である。

3) メーリングリストの開設

学生マナー向上委員会メンバー間と学生部マナー担当教員との情報交換や会議日程を調整するためメーリングリストを開設した。このメーリングリスト開設により、タイムリーにお互いに情報交換ができ、必要時に会議を開催することができるようになった。今後も引き続き活用をしていきたい。

4) 学園ニュース、同窓会だよりにおけるマナー活動の広報

マナー向上委員会の学内への広報の一環として、2009年4月発行の学園ニュース、聖路加看護大学同窓会だよりによりマナー向上のための活動内容を報告する記事を執筆した。

5) ベッドボトルキャップ収集キャンペーン

2Fラウンジに学生が収集したベッドボトルのキャップが貯まっているが、長期間放置されていることについて、学生マナー向上委員から問題提起があった。以前、キャップの収集に協力いただいた聖路加国際病院のサービス向上委員会と本委員が連携し、エコキャップ推進協会に送りワクチンを寄贈することができる対応を検討していく予定である。

3. 後期の活動予定について

1) 保健委員・図書委員との協働

体育デーにおける挨拶活動を通して、他の学生委員会と協働を行うことにより、マナー活動をより周知させることができた。後期は、その評価をもとに、インフルエンザの拡大を防ぐための咳マナー向上を目指す活動を保健委員と行う計画や図書館でのマナー向上を目指す活動を図書委員と行う計画が立てられた。今後、継続的に話し合いを行っていく予定である。

2) 白楊祭における活動

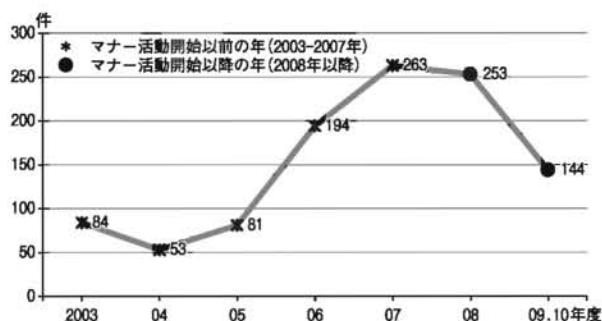


図2 拾得物の合計

白楊祭も多く多くの学生が参加するため、マナー向上の認知を拡大する機会となる。そのため、マナー向上委員会として白楊祭へ参加することになった。参加内容としては、白楊祭装飾部と連携してペットボトルキャップを集めるためのポスターを作成すること、挨拶活動を積極的に行うこと、マナー向上委員会の前期の活動内容の紹介をする掲示を行うことなどを予定している（写真3）。

3) その他の予定

クリスマスの集いでマナーを守って参加することを周知してもらうため、2Fラウンジにおける催し物前にマナーVTRを作成し上映を予定している。また昼休みに臨地実習中の3年生に席を譲る「心づかいキャンペーン」も行う予定である。

Ⅳ. 取り組みへの評価

1. 学生の態度の変化について

本取り組みへの評価として、本年度は、図1のスローガンにあるように、1) 授業マナーの改善内容、2) 拾得物の件数の減少、3) 地下ロッカー、ラウンジの環境改善を想定した。

以下に項目ごとに評価及び説明する。

1) 授業マナーの改善内容

授業マナーについては、学生自身、教員及び非常勤講師からのインタビュー結果で評価する計画にしている。前年度、本取り組みの開始前に非常勤講師へのインタビューを行い、学生の授業中の態度について調査したことから、2009年度末には再度インタビューを行い、取り組み1年後の評価を行っていく予定である。現時点では、2007、2008年に認められた非常勤講師からの授業中の私語に関する訴えは認められなかった。それ以前に学生自ら、「学生の授業中の私語が多く、それを注意したい」という希望が出され、7月初旬、各学年で学生同士の注意喚起の活動を行ったことが効をなしたと推測でき、以前より授業マナーに関しては改善傾向にあると考えられる。さらに、学生自らマナーに関心を持ち、授業マナーについて問題提起と行動を起こしたことは、2009年度

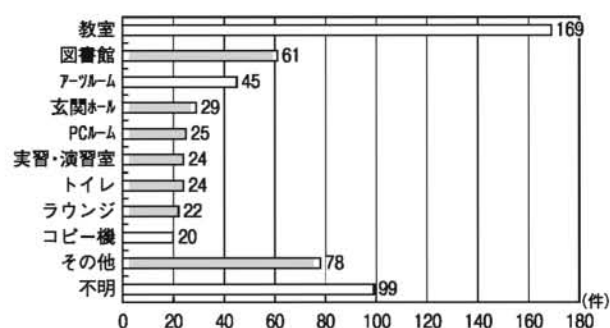


図3 拾得物の回収場所（2003～2007年度）

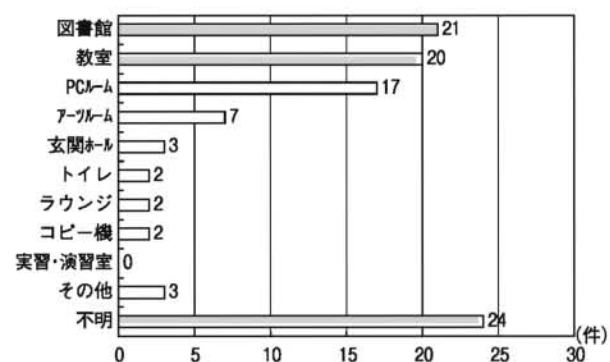


図4 拾得物の回収場所（2008年）

の本取り組みに値する「学生自らが行動する」という目標を達成できていると考える。

2) 拾得物の件数変化について

拾得物の総件数については、2003年から集計を行っている（図2）。

2003～2005年までは100件未満であったが、2006年度から急激に増加し、2007年度に関しては250件を越す多さとなった。拾得物件数の増加は、授業時の私語やゴミのポイ捨て等も重なり、マナー対策として学生部で検討するきっかけとなった。

「適切な学びの実現」のマナー活動を開始した2008年度は253件であり、急激な減少には至らなかった。

拾得物を回収場所別に見ると、マナー活動を開始前の2003～2007年は、教室が596件中169件（28.3%）と圧倒的に多く、次いで図書館が61件（10.2%）と3分の1の多さであった（図3）。しかし2008年度は、図書館が253件中21件（8.3%）、教室が20件（7.9%）と大差ない状態になった（図4）。拾得物の種類としては、2003～2007年は、ユニフォームや衣類が596件中128件（24.2%）と最も多く、次いで文房具が100件（18.9%）であった（図5）。2008年については、文房具が253件中59件（31.9%）と圧倒的に多い結果となった（図6）。

3) 地下ロッカー、2Fラウンジの環境改善について

地下ロッカーについては、本年度初めに写真撮影を自

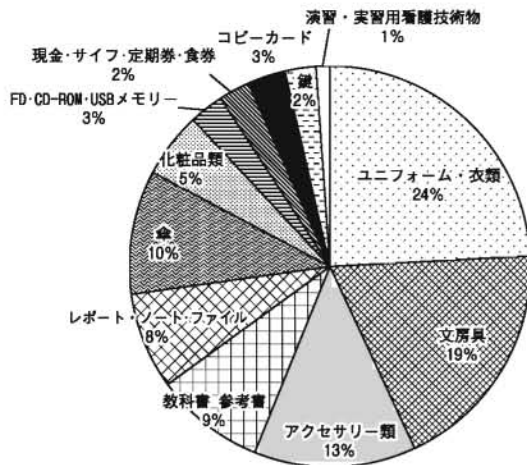


図5 拾得物の種類 (2003～2007 年)

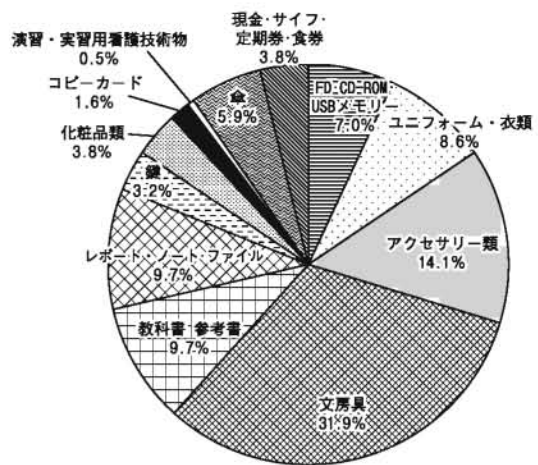


図6 拾得物の種類 (2008 年度)

治会と共に、本年度3月に再度、学生によるロッカーの写真撮影を行う計画をしている。このことにより本年度のマナー活動前後の変化を見ていく予定である。2F ラウンジについては、ゴミ箱周辺のゴミの散乱、多量ボトルキャップの放置があったが、これらについても前述のように、学生自ら、ゴミの分別掲示、ボトルキャップをエコキャップ活動に繋げることを行い、改善傾向にある。

2007、2008 年に認められた学内廊下への食べ物等のポイ捨ても少なくなり、清掃員や守衛員からのクレームも少なくなった。しかし、ホワイトボードや黒板への落書き、図書館での飲食や渡り廊下での私語、図書館ロッカーの乱用は認められ、学生間、教職員、病院関係者からのクレームは継続している。

V. 今後の課題

2008 年度学生部活動報告²⁾にもあるように、2008 年度は、マナー活動「適切な学びの環境の実現」は、学園内に周知してもらうための年であり、本年度は、行動に移す年であった。そのためか拾得物に関しては、2008 年度は大幅な減少はなかった。また現時点が 2009 年度途中であるため、評価項目である 2009 年度の拾得物件数や地下ロッカー・ラウンジの環境改善、非常勤講師からのインタビュー比較の視点からは評価ができなかった。しかしながら、前述のように学生自らがマナーに関する行動を開始し、委員以外の学生がマナー活動を行い、さらには学生同士で注意を投げかける場面が見られてきた点は、学生の行動変化として評価できるといえる。また

数値で評価できないが、ゴミのポイ捨てや授業中の私語のクレームが減少した点も評価に値する。今後もより学園内に認知を広め、多くの学生自らが行動を起こしていけるよう、学生部や学園内教職員は支援をしていく必要がある。

加えて、拾得物の拾得場所として、図書館が多い傾向になってきており、図書館での飲食、渡り廊下での私語も指摘されている。図書委員からマナーで連携をとる希望も出されていることから、連携を図り、図書館マナーに関する活動を今後、行っていく必要がある。

VI. おわりに

「適切な学びの環境の実現」をスローガンにマナー活動を開始して2年目となった。少しずつ学園内に認知がされ、学生の主体的な行動にまで発展した。適切な学びの環境を実現していくために、今後、マナーに関する学生の主体的な行動を支援しつつ、教職員自体も学生のモデルとなる行動を心がけていく必要がある。

引用文献

- 1) Hersey P.B. Kenneth H. and Johnson D.E.. (1996). Management of Organizational Behavior. Utilizing Human Resources (7th). 山本成二, 山本あづさ訳(2000). 入門から応用へ行動科学の展開 (新版) 人的資源の活用. 生産性出版.
- 2) 大久保暢子他. (2009). 学生部 2008 年度活動報告「適切な学びの環境を目指して」. 聖路加看護大学紀要. 35(3). 110-117.